

A 級一次審査報告

令和3年7月21日
報告者：千々岩 知佳

日時：令和3年6月6日（日）

担当ゲーム：第26回全九州大学春季バスケットボール選手権大会
福岡大学 v s 東海大学九州
CC:千々岩(鹿児島)、U1:末信(福岡)、U2:田添（佐賀）

ゲーム前：それぞれのチームの情報収集の共有・ガイドラインの確認・新ルールの確認

PGC：事前にチームの情報を共有していたが、改めてチームの情報の共有を行った。

査定ということもあり、緊張していたがまずは『ベーシックなメカ・シンプルな判定・処置ミスゼロ』をテーマにして、クルーでしっかり協力することを話した。それぞれが、CCメンタリティーを大事にして査定に臨んだ。

ゲームの内容：最終的には、スコアは少し離れたが事前の情報の通り、お互いに上手であり、終始競った試合となった。

1Qの前半は福大がドライブや、インサイド、インサイドから外、とプレーの幅がある印象であった。お互い、シュートを狙うもののなかなか入らず、スコア的には厳しい展開になった。東海大は、ドライブを狙っていくもシュートに繋がらず、福大がリバウンドを取り走り、良い形で2Qがスタートした。2Qの8：36の福大ベンチ側のエンドラインでのアウトオブバウンズでチダイワリード、判定は東海大のラストタッチでのアウトオブバウンズで福大ボールとした。東海大の学生は、「マイボール」のアピールがありその後、センターから福大が出したという確認がありレフリーミスジャッジとして訂正をした。後ほど、映像で確認をしたが正直、映像からはハッキリと分からなかった。東海大はドライブを狙って得点に繋げようとするが、福大のブロックやディフェンスによりなかなか点数が決まらず前半37対19で福大がリードで前半終了した。

前半より、両ベンチよりちょっとしたアピールがあった。それぞれで対応はしていたが、3Q40秒ごろ、東海大が飛び込みリバウンドからのタップシュートを狙った際に福大の10番が後ろから腕にヒットしている。これに

対して、東海大ベンチアピールあり。確認はできたが、コールすることができなかった。その直後、福大のトラベリングを吹き損ねてしまい、クルーにカバーしてもらった。その後は、東海大が少しリズムを掴み、追いつけてくるが63対48で福大の勝利で終わった。

ゲーム後：大きな吹きこぼしや処置のミス等はなく、クルーで協力してゲームを終わらせることができた。しかし、ゲームの「一貫性」ということを考えると、「一貫性に欠けていた」という3人の反省であった。一試合通して、アイコンタクトやタイムアウト・クォーター間・ハーフタイムでそれぞれが持っている情報を共有し、しっかりコミュニケーション（ネクストボーナス・クロック管理等）を取って進めることができた。ダブルコールになっても、お互いにアイコンタクトを取りどちらかがレポートに行ったが、本当のプライマリは誰だったのか、と反省で出た。

デリバリースキルとしては、もっと工夫して行う必要があった。レポートの仕方や両ベンチへの対応。

全体を通して：「CCメンタリティーを発揮できるように」を自分のテーマにして取り組みましたが、久しぶりの大学生の試合と査定ということもあり、とても緊張しました。ファーストコールに気合いが入りすぎてテンポセットとしては、ふさわしくない不必要な笛をいれてしまいました。改めて、ファーストコールをもっと大事にしなければならないと思いました。

試合を通して、自信をもってコールしたものも多く、タイマーの管理やチームファウルの確認等、当たり前のことを当たり前に確認し、最後まで自信をもって取り組むことが出来たと思います。しかし、吹きこぼしもあったので、再度「コール・ノーコール、リーガル・イリーガル」を理解して改善していこうと思います。

自分で思っている、実際に映像をみると違うことも沢山あり、勿体ないミスもありました。「一貫性」を考えたときに、少しバラつきはあり反省することもあります。最後まで集中を切らさずに、自信をもって楽しんで出来たと思います。

今回の一次査定にあたり、お世話になりました九州学生バスケットボール協会の皆様、また、参加に当たってご配慮いただきました福岡九州ブロック長をはじめ、原田審判委員長、鹿児島県バスケットボール協会の皆様に感謝し、一次審査の報告とさせていただきます。ありがとうございました。